

佐賀県の豪雨災害で被災した方にホットカーペットを送るプロジェクト 報告

2020年4月／震つな事務局作成

◆本プロジェクトにご協力いただいたみなさま 本当にありがとうございました

2019年は各地で災害が相次ぎ、8月末に発生した水害への支援が本当に少なくなっていました。このような状況の中、寒い冬を少しでも温まってもらいたいと手掛けた本プロジェクトでは、約50枚・70万円相当のホットカーペットを被災者に届けることができました。このプロジェクトの資金をご支援いただきまして、本当にありがとうございました。各地の被災地では未だ生活再建していない多くの方々が奮闘されています。引き続き、被災地への関心を寄せていただければ幸いです。

現地情報は以下から配信されています。お時間のある時にぜひご覧ください。

おもやいボランティアセンター／<https://local-design.jp/omoyai/>

おもやいボランティアセンターfacebookページ／<https://www.facebook.com/omoyaivc/>

なお、みなさまよりいただきました寄付の残額は、当ネットワークが行う佐賀県への支援活動に有効に活用させていただきます。

◆ホットカーペットを受け取った方々からの感謝の声

親戚が来てくれて、自分の家は床下浸水だったけれど、全部捨てられて。なんで捨てたのって今更言えないけど、こうやって来てくれる人に言えるからありがたい。（こたつしかなく）カーペットをもらえてありがたい。（80代男性独居：11/22にお届け）

やっと今日、床張りが終わったところだった。荷物を片付けているところで、暖房器具を買ってなかったから（最初は怪しいと思ったけど）ありがたい。後でお金を請求されるのかと思った。石油ストーブは危ないけど、電気ファンヒーターとカーペットだったら安心。（80代女性：11/22にお届け）

毎日、避難先のお姉さんのお宅から片付けに来ているが、とても寒くなってきているのでありがたい。猫もいるので、サッシやドアを開けているから寒くて。（70代男性独居：11/28にお届け）

80代の老夫婦の二人暮らしで車もない。家内が目が不自由なので、足元が不安ですぐに床を大工さんにはってもらったが、それでも寒くて寒くて……。各部屋にカーペットを敷いて生活をしている。（80代男性：12/7にお届け）

6人家族だったが水害で2つに分かれての生活。寂しくて、悲しくて、眠れない日が続いている。仕事に行くことも精神的にも辛くなっていけなくなり、傷病手当が受けられるかどうか、前の職場で検討してもらっている。最初は早く復帰するように職場から言われ、「北方の人はもう復帰しているよ」と言われたが精神的に何も手につかない状況になってしまい、辞めざるを得なかった。打ち明けることもできずに、相談するところもない。北方におもやいWCがあると聞かれて向かってみたけど、なんで北方に向かっているんだろうって泣けてきた。（30代女性：12/9にお届け）

これまで人にこんなことしてもらったことがないので、何を返したらいいかわからない。でも本当にありがたいです。（90代男性：2/13にお届け）

◆令和元年8月豪雨 被害概要

- ・2019年8月27日から29日にかけて秋雨前線が停滞したことによる線状降水帯が発生。集中豪雨となり、28日には佐賀県、福岡県、長崎県に大雨特別警報が発表され、佐賀県内で大きな被害となった

【令和元年12月5日内閣府発表資料より】

- ・人的被害：死者4名（佐賀県武雄市3名、福岡県八女市1名）、重傷1名（佐賀県）、軽傷1名（福岡県）
- ・住家被害：全壊95棟（佐賀87、福岡6、山口2）、半壊877（佐賀853、福岡24）
一部破損53（佐賀23、福岡26、他4）、床上浸水904（佐賀759、福岡120、長崎20、他5）
床下浸水4,739（佐賀4,290、福岡350、長崎66、他33）

【令和2年3月11日佐賀県発表資料より】※住家被害のみ記載

- ・全壊87（大町町73、佐賀市3、武雄市2、他3）、大規模半壊107（大町町71、武雄市34、他2）
半壊759（武雄市712、多久市29、他18）、浸水以外での一部破損24（武雄市14、佐賀市4、他6）
床上浸水773（佐賀市407、武雄市202、小城市70、多久市41、大町町18、他35）、
床下浸水4,310（佐賀市2,492、小城市560、白石町443、武雄市332、江北町167、大町町131、多久市128、他57）

◆支援者（震つな関係者など）の動き

水害発生直後より、震災がつなぐ全国ネットワーク（以下、震つな）会員団体や日頃から情報共有を密にしている団体らが現地入りし、被害状況把握を行った。

工業用の油が流出した大町町の報道が多くある中、震つな団体会員の被災地NGO協働センターのスタッフとして熊本地震の支援を行うなどしていたメンバーが武雄市在住ということもあり、震つなとしては武雄市の支援を中心に担うことになった。

武雄市災害ボランティアセンター（VC）からの要請により、名古屋にて保管している水害対応の資機材を搬送したほか、震つな作成の「水害にあったときに～浸水被害からの生活再建の手引き～」を支援団体や自治体を通じて配布した。

このほか武雄市では、生活再建に向けての相談会を市内5か所で開催。これには、地元佐賀県の弁護士会や建築士会の協力を得て、住宅の復旧や今後の制度申請などについての相談が行われた。



9月に入り、台風15号による被害が千葉県を中心に発生。その後の台風19号では、全国390もの市区町村が災害救助法の適用を受けるなど、広域な水害被害をもたらした。九州北部では水害被害の復旧がままならない中、他地域で大きな災害が発生したことにより、世間の関心だけでなく、支援も集まりにくくなっていったが、地元武雄市在住の方々为中心となり、「おもやいボランティアセンター（以下、おもやいVC）」を開設・運営し、被災者の声に応え、復旧活動を続けていた。

このような災害同時多発の中、震つなでは、縁のあったおもやいVCの運営を継続的にサポートすることを決め、震つな会員などが現地滞在しながら支援にあたった。

◆ホットカーペットを送って心も身体も温まっておう

被災から2ヵ月あまり経過した11月初め頃、冬支度を始める時期になってきたが、家屋の応急復旧もままならない住宅が多く、寒さ対策が喫緊の課題となっていた。

おもやいVCでは、日々被災者の声を聴き、住宅復旧にとどまらないきめ細かな生活支援を行っており、寒さ対策として暖房器具を配布したい、との要望があり、震つな役員を中心に協議した結果、おもやいVCが行う「ポカポカ作戦」の一環としてホットカーペットを武雄市で購入して配布するプロジェクトに協力することになった。

2畳タイプのホットカーペットを50枚。クラウドファンディングを活用して、佐賀の支援が続いていることを広く知らせつつ、寄付を呼びかけることにした。広報手段はfacebookやメーリングリストのほか、震つなに関係する方々に直接打診し、その甲斐あって、1月末に目標額を達成することができ、50枚のホットカーペットをおもやいVCにお渡しすることができ、おもやいVCから被災者の手に直接届けられた。

◆ポカポカ作戦を行った「おもやいVC」の代表（鈴木隆太さん）からのお礼

昨年8月末に発生した線状降水帯による豪雨災害で被災した佐賀県。多くの家屋が床上・床下浸水の被害が発生しました。ちょうど満潮時と重なった大雨によって河川の決壊ではなく内水氾濫による水害のため、多くの世帯が半壊以下という罹災判定で、なおかつ高齢の方々が非常に多い地域ということもあり、年が明け、4月が過ぎた今でも「あまり先も長くないから、お金をそんなにかけたくない」という方もいらっしゃるくらい、どこまでどう修復を行うのか、特に半壊以下の世帯への公的支援は応急修理制度しかない状況で、住宅再建がとても悩ましい世帯が多くありました。

なおかつ、この地域は元々が水害の常襲地域でもあり、平成2年には豪雨による大規模な水害が発生しているところでもあります。しかし、それから30年の経過とともに、地域の実情も大きく変化し、人口減少という一方で世帯数の増加、さらには高齢化によって平成2年当時はボランティアの存在もなく生活再建を成し遂げてきたこの地域だったのが、30年を経過して地域間による相互の助け合いが難しくなっているという現状も目の当たりにした時、これら様々な課題について解決できなくても、もう一つの選択肢を模索していく中

で、この地域における持続可能性を手探りで活動しながら続けてまいりました。

そんな中、夏から秋そして冬へと季節が移り変わっていく中で、震災がつながり全国ネットワークの呼びかけによるホットカーペットのご支援を多くの方から賜り、その思いとともにホットカーペットをお届けさせていただけただけのこと、本当にありがとうございます。

高齢の方が多いため、石油ストーブだと心配なお宅へもホットカーペットをお届けで



きたことによって、修繕途中の住宅であっても暖かく冬を過ごしていただくことができたのではないかと考えております。

ですが、私たちの活動もご縁をいただいた方にしかお会いできていないのではないかと、という心配を常にしながら継続しております。まだまだお会いできずに一人で悩ましい状況の中で暮らしていらっしゃる方がおられるのではないかと、そしてこれが無駄な心配であってほしいと思いつつ、そうした方がおられない、「最後の一人までの復興」を本当に目指して今後も活動を継続してまいります。

今年もまた雨の時期を迎えます。本当に安心して暮らしていく地域づくりへと取り組みを進めていこうとした矢先に新型コロナウイルスの感染拡大により、訪問活動すらままならない状況になっております。ただこれまでいただいたご縁を大切に、つながりを持ち続けながら今、ここでできることを一つずつ積み重ねていくなか、活動を継続してまいります。

みなさまお住いの地域で災害によって何かお困りのことがあった時には私たちもご恩返しとしてできることをさせていただきたいと思っております。困った時はお互い様、という社会を実現していくために、どうかみなさま、今後ともよろしく願いいたします。

この度は本当にありがとうございました。



◆寄付者一覧（順不同、匿名希望の方は掲載していません）

吉岡七輝 様／仲田慶枝 様／明保里美 様／高橋宏宗 様／間瀬トシ子 様／中原真吾 様／藤原龍司 様／柚木美乃 様／安井友里 様／河内毅 様／高橋亜弥子 様／松尾和光 様／高崎賢一 様／ムーブメント・メディソン（赤塚 様）／11/11活動報告会での募金@TVAC会議室／リ spons 協会・奈良 様／湖西市災害ボランティア 様／アレルギー支援ネットワーク 様／愛知ネット 様／レスキューストックヤード 様／水澤電機株式会社 様／静岡県ボランティア協会 様

◆収支報告

収入の部		支出の部	
項目	金額	項目	金額
寄附総額	721,490円	ホットカーペット購入代金（振込手数料込）	670,380円
		クラウドファンディング決済手数料(8%)	11,400円
		クラウドファンディングからの振込手数料	1,320円
合計	721,490円	合計	683,100円

【収支差額】 38,390円